プトンの「理趣経」註 —(3)—

福田亮成

プトン（一二九〇～一三六四）の数多くの著述のなかで、『吉祥最勝本初タントラ（Śrī-paramādya-tantra）』に関するものに十種を数えることができる。（それらの書名は、他の論考で掲げてあるので、こゝでは『東北目録』（西蔵撰述仏典目録）の番号（No. 5124～No. 5133）をもってかえることにする）。当論考では、これら十種の著述によつて考察されている諸問題と、それらの著述の相互関係とを中心に述べてみたい。

さて、これら十種の著述には二つの中心がある。すなわち「根本儀軌」たる『吉祥最勝本初タントラ』の「般若分」（タントラの前半を般若分とよび、後半を真言分とよぶ……北京版に見られる……）の全体を所依として展開されている「摂部類（sarva-kula-saṃgraha）」という主題と。「般若分」の冒頭の段である「金剛薩埵段」を所依として展開されている「金剛薩埵（vajra-sattva）」という主題とである。前書は No. 5124 であり、後書は No. 5129 である。そして、この二書は「摂部類マンダラ」と「金剛薩埵マンダラ」を各々建立し、灌頂までの次第が述べられているのであるが、これら二書は、まつたく同一文章によつて描写され、マンダラ構成上の相違によつて少しくそれに関する部分の描写が異る程度のものであるが、ともあれ『吉祥最勝本初タントラ』を、その二つの面でとらえようとしていることが明瞭である。

まず No. 5124 を中心とするグループに No. 5125, 5126, 5127 があり。No. 5129 を中心とするグループに No. 5130, 5131, 5132 がある。残りの No. 5128 と No. 5133 は、両方の中心にかゝわるものがあるといえる。

No. 5124 は、その具名を『吉祥最勝本初所説の摂部類マンダラの儀軌たる〝不空三昧マンダラ出現〟という書』といゝ、この著が、地の浄化→地の護持と次第し、内・外のマンダラの諸尊構成の部分にいたり「摂部類マンダラ」の実際がとかれるのであるが、No. 5125 では、それらの諸尊の色、印、三昧耶形、坐相、位置等が規定され。No. 5126 では、前書で取上げられた諸尊名とその尊の持している三昧耶形の、チ

ベット文字によるサンスクリットの音写とチベット訳語とを順次に掲げてある。この二書によつて「摂部類マンダラ」の実際がより具体的に正確に構築されてくるのである。No. 5125 は、諸尊に対するイコノグラフィカルな描写による礼讃（stotra）であり。No. 5126 は、「金剛を以てする成就法」すなわち ahaṃ-kara の成就法で、諸尊の名の一つ一つに ahaṃ をつけて観念し、「摂部類マンダラ」との一体観を成就するのを目的とするものである。No. 5127 は、「摂部類マンダラ」の度量法（thig-rtse）である。

もう一つの中心である No. 5129 は、その具名を『吉祥最勝の金剛薩埵マンダラ儀軌〃大三昧の真性金剛出現〃という書』といゝ、「金剛薩埵マンダラ」を出現せしめるものであるが、この書に関係を有する No. 5130 は、「善にして息災ならしめる護摩」の次第をのべるのを主たる内容としている。No. 5131 は、金剛薩埵成就法（śri-vajrasattva-sādhana）で、「金剛薩埵マンダラ」に依る成就次第がのべられている。この書で興味のある点は、関連文献からの引用が多いことである、例えば、根本儀軌たる Dpal-mchog gi rgyud 及び、アーナンダガルバの註釈（ḥgrel-pa）さらには、Saṅs-rgyas-thams-cad mñam-par sbyor-ba la sog-paḥi rgyud, Rab-shi-ba gñen gyi ḥgrel-pa 等から種々に引用がなされている。（この問題点は、他の機会に詳説したい）。No. 5132 は、具名を『吉祥最勝金剛薩埵により末期に到れるものらを救済する儀軌』とあるごとく、「金剛薩埵マンダラ」による死者に対する修法を内容とするものである。その内容の一部を紹介すれば、

「吉祥最勝本初の金剛薩埵の儀軌に附依して」云云として、

「屍を洗い樟脳等の美香の水を屍の面に注ぎ、善香をもつて身の一切に偏く塗り」、

「大瑜伽の諸天の真言 hūṃ を描き按んじつつ、出家なれば法衣をまき、（在家）なれば白く清浄なる衣をまき、荘厳具をもつて荘厳し、理に応ずるごとき住処に坐せしめるなり。もし、屍なければ、骨、あるいは衣、あるいはその（人の）影像を正しく描き、諸処に諸の文字を施設し、その後に帰依せる儀軌をもつて描くべし」云云

というがごときである。

以上は、二つの中心である No. 5124 と No. 5129 に各々附随して、たとえばマンダラ構成を抄略せずに出したり、あるいはマンダラの度量法を述べたり。さらには、護摩次第を別に詳説したり、儀軌に附依して死者に対する儀礼をのべたりしたのである。

この様な著述に対し、上述の二つの中心からは自由なものがある。その一つは、No. 5128 である。この著の具名は『吉祥最勝（本初）の十二妃と（金剛）頂の四秘密妃の供養舞楽といゝ、根本儀軌に出てくる「十二妃」と、『金剛頂経』に

出てくる「四秘密妃」の舞楽の様子をのべるのである。すなわち「舞の姿」をこまかく述べたもので、

「左右の二足をそろうべし、という時は、手掌を離して合わせ、頂を屈する印（をなせ）」云云

というごときである。

No. 5133 は、その具名を『吉祥最勝マンダラの諸尊の吉祥偈〃法と吉祥を増上する〃という書』といゝ、マンダラ上の諸尊に対する吉祥偈（maṅgala-gathā）を主たる内容とするものである。この書は、前の書と異り「摂部類」「金剛薩埵」マンダラの両方に関係を有している。すなわち、まず「金剛薩埵マンダラ」上の諸尊をば、四、六、八尊等にくくつて、それに別な名称を附しているのである。そして、「摂部類マンダラ」の諸尊にゆきかけて、途中で終つている。

ちなみにそれを掲げてみると、

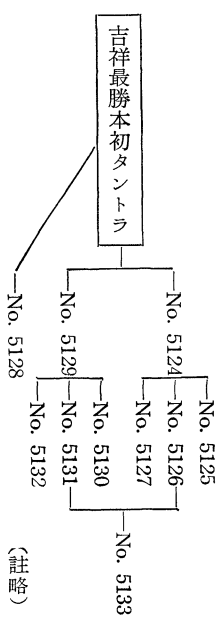
1、金剛薩埵……　吉祥を転ずるなり
2、金剛意生（rdo-rje yid las byuṅ）
3、キリキリ（kilikili）
4、金剛愛母（rdo-rje dran-ma）
5、金剛慢母（rdo-rje sñoms-ma）
6、金剛春（rdo-rje sbraṅ-rtsi）
7、金剛夏（rdo-rje sprim-ma）
　　四秘密の諸尊母
8、金剛秋（rdo-rje kham）
9、金剛冬（rdo-rje dgun-ma）
　　四時供養の諸尊母
10、金剛嬉女（rdo-rje sgeg-mo）
11、金剛鬘女（rdo-rje bshad-ma）
12、金剛歌女（rdo-rje glu-ma）
13、金剛舞女（rdo-rje gar-ma）
　　供養の四尊母
14、金剛色女（rdo-rje gzugs-ma）
15、金剛声女（rdo-rje sgra-ma）
16、金剛香女（rdo-rje dri-ma）
17、金剛味女（rdo-rje-ro-ma）
　　欲楽の四尊母
18、世尊なる阿閦（mi-bskyod）
19、王なる宝生（rin-chen-ḥbyuṅ）
20、仏なる無量寿（ḥod-dpag-med）
21、善逝なる不空成就（don-yod-grub）
　　四部主
22、金剛手（phyag-na-rdo-rje）
23、文　殊（ḥjam-dpal）
24、虚空蔵（nam-mkhaḥ-sñiṅ）
25、虚空庫（nam-mkhaḥ-mdsod）
26、観自在（ḥjig-rtem dbaṅ-phyug）
27、金剛因（rdo-rje-rgyu）
28、金剛拳（rdo-rje-khu-tshur）
29、金剛夜叉（gnod-sbyin）
　　八菩薩

- 六智慧王
  - 30、欲天牟尼（ḥdod-lha thub-pa）
  - 31、金剛金剛（rdo-rie rdo-rje）
  - 32、最勝智（rig-pa mchog）
  - 33、幻　女（sgyu-ma）
  - 34、金剛鈴（rdo-rje dril）
  - 35、金剛器（rdo-rje mtshon-cha）
- 四金剛忿怒
  - 36、金剛クンダリー（rdo-rje ḥkhyil-ba）
  - 37、金　剛　光（rdo-rje ḥod）
  - 38、金　剛　杖（rdo-rje dbyug-pa）
  - 39、金剛カナダ（rdo-rje ser-skya）
- 四集主
  - 40、金剛慢（rdo-rje myos-pa）
  - 41、金剛鬘（rdo-rje phren-ba）
  - 42、金剛主（rdo-rje dbaṅ）
  - 43、金剛勝（rdo-rje rnam-rgyal）
- 四金剛使
  - 44、金剛杵（rdo-rje gtun śin）
  - 45、金剛風（rdo-rje rluṅ）
  - 46、金剛女（rdo-rje-ma）
  - 47、金剛畏（rdo-rje ḥjigs byed）
- 四金剛念
  - 48、金　剛　鈎（rdo-rje lcags kyud）
  - 49、金　剛　時（rdo-rje dus）
  - 50、金剛魔の上首（rdo-rje bgegs kyi gtso-bo）
  - 51、金剛歌転（rdo-rje glu-gar）

とて「金剛薩埵マンダラ」を終り。つづいて「摂部類マンダラに入つて、金剛ウンキャラ、文殊、虚空蔵、虚空庫、有情調伏、因、拳、夜叉の八マンダラ。息災槍、仏母、三兄弟、四姉妹の四マンダラの吉祥が聞われるが、たゞそれのみで終つている。そして続いて「金剛薩埵マンダラ」の諸尊構成に、今度は四部による分類を試みて

○金剛部の摩訶薩の吉祥はいかん
　金剛色・嬉女・金剛春・〈文殊／金剛手〉・意生
○宝部の摩訶薩の吉祥はいかん
　金剛声・鬘女・金剛夏・〈虚空庫／虚空蔵〉・キリキリ
○蓮華部の（摩訶薩の）吉祥はいかん
　金剛香・歌女・金剛秋・〈観自在／金剛因〉・愛母
○羯磨部の（摩訶薩の）吉祥いかん
　金剛味・舞女・金剛冬・〈金剛拳／金剛夜叉〉・慢母

と整理している。以上概略見てきたが、これら十種の著述は次のごとくに配置できよう。



（註略）